

枝打ち作業の手順と注意点

1. 作業服の袖、ズボンの裾は、ボタンや金具でしっかり止めておくこと。
2. 枝打ち作業は寒い時期が多いので体の動きが鈍くなっている。仕事始めに軽い体操をして身体をほぐしておくのとそれに続く作業に身体が馴染みやすい。
3. 木の大きさにあった長さの梯子を使用すると作業もしやすく安全の確保にもつながる。
4. 梯子の子（段）は斧の背で軽く叩いてみて鈍い音がするようでは弱ってきているので早めに取り替える。
5. 梯子の足に取り付けた金具はしっかりと地中に差し込み梯子が回らないようにする。
6. 石や岩の所は梯子の足の爪が馴染みにくいのでよく注意して差し込み、危ないと思った時は梯子を枝打ちしようとする木にロープで縛り付ける。
7. 長い梯子（4 mを超えるような）を使う時や風の強い日はロープで縛って安全を確保する。
8. 梯子を1～2段上がったところで横揺れしたり梯子が回ったりしないか確かめる。
9. 梯子をかける時、前に打った枝が隣の木等に掛かったりして、顔の上に落ちてきたりして危険なのでよく注意する。
10. 梯子から降りる時は、打ち下ろして掛かっている枝は落としながら降りてくる。
11. 梯子の頂点に立った時は、片足を幹に絡ませて立つと梯子が幹から離れたりする危険を防ぐことができる。
12. 顔前にある枝は、目の保護のために先に打ち落とす。
13. 肘や柄尻につかえる枝も先に打ち落とす。基本造作として利き腕の方に位置する枝から落としていく。
14. いったん梯子の頂点に上がってから順に下へ打ち下がった方が安全である。

15. 必要以上に斧を大振りしない。大きく振らなければならない時は、一度素振りをする。
16. 斧を持っていないほうの身体を支えている手は安全な位置に置く。
17. 梯子の子の間隔は一定にしておくとか覺的に安定する。
18. 斧の柄は必要以上に長くしない方が、柄尻がつかえなくて安全である。
19. 太い枝は鋸で先に落としてから斧で仕上げる。
20. 梯子を上がる時は、特にロープで縛ってない時は、上がろうとしている木の幹に手をかけて上がる。
21. 梯子の低いところで油断しないこと。今まであまり事故はないが、踏み外すのは低いところが多い。
22. 斧は腰に差すより箱を作って腰に吊るし、これに入れることが仕事がしやすく安全である。
23. 斧は真上から打ち下ろすのではなく、斜め上から引き下ろすような感じで打ち下ろすと切跡がきれいである。